

桜蔭俳話会 七月句会 (第二八八回) 桜蔭会館

平成二十二年七月二十五日

- 4点①行水や未来をつかむ子の拳 守 打ち水に緑の植木店入る 真三  
 2点②サングラスどんなに見ゆと妻に聞き 溪水 六感を動く痛みや梅雨重し 幸  
 2点①夏座敷声をととのへ口を切る 秀一 一面の黄すげの原や昼弁当 溪水  
 雲の峰一氣に大空描くなり ヤエ子 一声し夏のシーバス折返へす 真三  
 2点 暑き町しつかり抱かれ赤ん坊 ヤエ子 胃カメラてふ蛇呑む汗滲む 貞勝  
 生きてゐる証の汗よ一拭ひ 守  
 酒呑まぬ女家族や冷奴 秀一 不在投句 (瀬戸溪水、野上貞勝)  
 1点①噴水の己が重さに崩れけり 守  
 1点 一ト部屋に一ト日を暮す溽暑かな 秀一  
 黒南風や海上を掃く探照灯 貞勝  
 緑陰へベンチすらせる婆ふたり 友子  
 店先の子犬と目遭ふ炎暑中 ヤエ子  
 噴水を透けゐてはしやぐ子らのあり 友子  
 緑陰や鳩と語らふホームレス 貞勝  
 一望の雲海の涯加賀白山 幸  
 片陰をゆくハマ風や野毛の坂 真三  
 梅雨深し水無川に水奔り 溪水  
 嫁ぐ子の幸はせ念ず夏祭 友子  
 空と海とけ合ひ由比の梅雨ぐもり 幸  
 老鶯の真似の口笛かすれけり 友子  
 紅蓮とまれよ言葉出づるまで 守

- ※ 物ぐさがしみつきしまま梅雨明くる 溪水  
 校庭を吹き抜ける風夏休み 友子  
 梅雨明けや空晴れ渡り身は軽く 真三  
 国酒と総理の書ある蔵涼し 幸  
 白南風やゆるりと進む大き船 ヤエ子  
 茶も水も牛乳も飲む溽暑かな 秀一  
 雲の峰怒れるごとくクレイン立つ 貞勝  
 夏のタドラムのソロやジャズトリオ 真三  
 梅雨明けの猛暑に消えし生命かな 溪水  
 高架線夏雲抜けて山を縫ふ 幸  
 パスポート切れしままなり雲の峰 秀一  
 梅雨晴れ間道路工事の手際良き ヤエ子  
 地の下の命しづかに蟬時雨 守  
 顔に国旗画くサポーター明易し 貞勝